

## おきなわのまもりがみ

うるま市立あげな小学校 2年生 金武 銀杏

「これがいい。」

かぞくで、新しいおうちのシーサーをかいにいったときの事です。

たなの上に、シーサーがたくさんならんでいました。

その中でも、わたしは、くろ色のシーサーと目が合いました。

はがまっ白で、犬みたいに前をむいて、おすわりをしていました。

「やっぱりこれがいい。」

このシーサーなら、新しいおうちを、まもってくれると思いました。

父さんもかあさんも、さんせいして、わたしのえらんだシーサーをかいました。

新しいおうちの前にシーサーをおくと、ぴったりでした。

「ありがとう。わたしたちが、このおうちをまもってあげるよ。」とシーサーたちがいつてるみたいでした。

おきなわのどのおうちにもシーサーがいます。

にっこりしているシーサーは、しあわせをよんでいるみたいです。

おこったかおのシーサーは、どろぼうを見つけて、おこってるみたいです。

わたしの小学校には、大きなシーサーがいます。まい朝、みんながあんぜんにとう校できているか見まもっています。

わたしは、この大きなシーサーを見ると、げん気がでます。

休み時間もかえるときも、わたしたちを見まもっています。

シーサーには、いろんな力があって、いいなと思います。

もし、おきなわにシーサーが一つもなかったら、いまよりも、もっとあぶないことがつづくでしょう。

そこで、わたしは、いいアイデアを思いつきました。

おきなわ中に、シーサーをおいたらどうでしょう。

そしたら、あぶないことがおきにくくなって、しあわせなまい日になると思います。

すると、おきなわの人はみんな、うれしくなってやさしくなるでしょう。

やさしい人がふえたら、へいわなまい日がつづくでしょう。

だから、シーサーは、おきなわのまもりがみとして一ばんです。